資料2

第２回　習志野市学校指定品検討委員会　参考資料

横浜市立岩崎中学校における「自由服」の導入と現状

1　導入の経緯

・平成 3 年、生徒会長が公約に「自由服」を掲げたことが発端。当時の 2 年生を中心に「自由服の検討を求める運動」へと発展。数年の議論を経て、平成 7 年より正式に自由服へと移行した。

2　服装のルールと基準

・普段の登校時は私服（自由服）を認める。式典や入試の際は「正装」を義務付けており、基準は「式典にふさわしく、入試にも着ていける服装」と定められ、生徒の判断に委ねられている。カバンや上履きも原則自由だが、部活動等で他校との識別が必要な場合に限り「指定ジャージ」が存在する。

3　導入によるメリット

・制服購入費がかからず、経済的負担が軽減される。派手な服装は少なく、機能的なジャージ登校が主流である。
・教員側は制服の着崩しや改造に対する指導が不要となり、服装をめぐる生徒との摩擦（不毛な対立）が大幅に減少した。

4　課題と生徒の反応

・「毎日何を着るか迷う」という声はあるが、大きな混乱には至っていない。
・自由である反面、制服に憧れを抱く生徒も一部に見られる。
・横浜市では校則（標準服・制服の有無）の決定権は各学校に委ねられている。

横浜市立青葉台中学校における「自由服」の導入と現状

1　導入の経緯

・昭和 48 年の開校当時、2 年生は制服、1 年生は私服という対応が必要となった。保護者は制服を希望したが、生徒は私服を希望。協議の結果、生徒の希望に沿って私服を採用した。

2　服装のルールと基準

・普段の登校時は私服（自由服）を認める。式典や入試の際は場に応じた服装を義務付け、生徒の判断に委ねられている。カバンや上履きも原則自由。ただし、体操服とジャージは指定されており、学年色のフェルトに校章をつけ、安全ピンで服に装着することが義務付けられている。

3　導入によるメリット

・教員側は制服の着崩しや改造に対する指導が不要になり、服装をめぐる生徒との摩擦（不毛な対立）が大幅に減少した。
・制服購入費がかからず、経済的負担が軽減される。結果として黒やグレーの服装が多く、地味になりやすい。
・身長が伸びても購入し直す必要がない。

・入学式では新入生が小学校の卒業式で着た服を着ることが多く、私服登校の姿は小学生のように見える。ジャージ登校は少ない。
・教員側は制服の着崩しや改造に対する指導が不要となり、生徒との摩擦が減少した

4　課題と生徒の反応
・考える力が不足している生徒は、何を着ればよいか質問してくることがある。
・50 年以上の歴史により、現在は大きな問題はなく、私服登校が定着している。
・横浜市では校則の決定権は各学校に委ねられている。

千葉市立打瀬中学校における「自由服」の導入と現状

1　導入の経緯
・開校当初から自主性を重んじる校訓に基づき、制服は設けられなかった。

2　服装のルールと基準
・普段の登校時は私服（自由服）を認める。式典や入試の際は紺ブレザーの着用を義務付け、華美な服装は禁止されている。ジャージやカバン・上履きは指定されている。

3　導入によるメリット
・制服購入費がかからず、経済的負担を軽減できる。
・成長に応じた服装が可能で、生徒の自主性の向上に寄与している。

4　課題と生徒の反応
・華美な服装をする生徒への対応に追われることがある。基準が曖昧な部分があり、判断が難しい場合もある。
・経済格差が顕著になりやすく、転入生は戸惑うことがある。
・経済力が比較的高い地域であるため、私服の方が制服より経済的負担が少ないかは一概に言えない（良い服を着ている生徒もいる）。

≪参考≫
横浜市　　令和７年度中学校数は１４６校（義務教育学校３校を含む）
千葉市　　令和７年度中学校数は　５３校

その他の制服がない中学校
・杉並区立天沼中学校、水戸市千波中学校、印西市立西の原中学校